

首都機能移転県民フォーラム（日光地区）の開催結果の概要について

1. 日時・場所

- ・対象地域日光地区（今市市、日光市、藤原町、足尾町、栗山村）
- ・平成9年6月28日（土）午後1時00分～午後3時50分
- ・今市市日光東照宮晃陽苑

2. 参加者

- ・コーディネーター（宇都宮大学名誉教授馬場信雄氏）
- ・意見発表者（地区内市町村の各種団体等の代表）10名
- ・主催者側（県民会議幹事、事務局）12名
- ・県議会議員（地元選出）6名
- ・随行、市町村職員、一般等160名

3. 意見の概要

-意義などに関する意見-

- 国の最重要施策の1つに位置づけられ、法律まで作って推進されている首都機能移転計画が、財政再建が全てに優先するとした発表によって軽々しく延期されてしまうのは首都機能移転論議の善し悪しに係わらず、今の政治姿勢そのものを表しているのではないか。
- 当地域には、日光・鬼怒川・川治・湯西川といった名だたる観光地、温泉地を控えており、首都機能移転による人口増加、あるいは各種文化の流入は、農業・工業・商業・サービス業いずれの面においても経済効果、また社会的、文化的効果が計り知れないものがあり、大いに歓迎するべきものである。
- 東京の過密は限界に達し、住宅・通勤環境面では世界の大都市の中でも低水準であり、これ以上の集中を防ぐためにも新首都建設は効果的である。また、行革や地方分権は重要であるが、様々な要因や抵抗により進まない現状を打破する起爆剤としても進めるべきである。
- 海外のいろいろな事例のなかで、イギリスの例を挙げれば、首都機能の一部を移転したところ、民間企業の進出等があり、町の活性化につながったことがある。首都機能移転は地方経済の活性化につながるものである。
- 日光圏は、那須地域から50トと大変近いので、観光産業に止まらず、他の産業もますます発展すると考える。
- 東京は地上も超過密であるが、地下も超過密になっている。東京はもはや限界であると感じる。首都機能移転は、東京を中心とした住民の生活レベルを向上させるだけでなく、地方分権や規制緩和推進のトリガーになると信じている。
- 東京・横浜が経済の中心となり、筑波が研究学園都市となり、那須が首都機能を持ったとすれば、関東地域にとって大変プラスと考える。
- 首都機能移転の論議を契機に、住民があるべき栃木県の姿や自分達の地区の将来像について、行政と一緒に議論するチャンスだと思っている。
- バブル崩壊後の財政難の折、このような大きなプロジェクトが国民全体に許容されるのか疑問に思う。また、なぜ那須なのかという疑問を持っている人達もたくさんいるのではないかと思う。
- 首都機能移転によって栃木県の地味な県民性が、新住民との交流によって変わり、生活文化も変化し、活性化につながることを期待する。
- 那須地区への首都機能移転は経済的にも文化的にもいろいろメリットがあると思う。観光の町、足尾

- にしても、観光面だけでなく文化や芸術の面でメリットがあると思うので早く達成していただきたい。
- 首都機能移転は古来から政治的あるいは地域的に大きな転換期に起きてきたことであると教育現場にある者として子供達と考えてきたが、今回の首都機能移転については大きな目的、必要性がいろいろあって読み取れない。子供達とともに考えていく上でポイントがどこにあるのか迷ってしまう。

-課題に関する意見-

- JAの基本理念のなかに「自然に抱かれ、自然と共生する形で、農村を含む地域全体社会を新たに創造する。」と言うものがある。首都機能移転により自然環境の悪化が懸念されます。基本理念を実現するためにも自然環境を保護し、農業者が新しい住民から追いやられないような共存できる環境作りが重要な課題になると思う。
- 温暖化、砂漠化、熱帯雨林の減少、開発による野性動植物への影響など、人為的自然破壊の結果であって、人間の身勝手が人類の滅亡につながっていくと思う。人間は自然に生かされているという謙虚さを失ってはならない。
- 那須野ヶ原の自然に決定的な影響を与えるとともに、農林・漁業・商業などの地元産業の崩壊をもたらし、新旧住民の対立が起こるなど地域社会が根底から崩れてしまう恐れを感じる。
- 国民に余暇意識が増大してきて、観光新時代を迎え、今後は観光による地域活性化は広域連携が必要になってくると考えている。首都機能が移転され人口増加が見込まれると、地域振興や観光に対する波及効果は否定できない。このような状況になれば、受け入れ態勢が整備された観光地としての統一的な管理が必要になると考える。
- 栃木が首都機能を移転する第1候補に挙げられるために、問題解決は、行政ばかりに依存するのではなく、自らが関わり、行政に相談したり、援助をお願いする県民、市町村民でなければならぬと思う。国、県、市町村という図式を逆に、下から上へ変えることが大切だと思う。
- 恵まれた郷土に感謝し、守り、保護しながらこれを後世に伝えていくとともにこの良さを国の内外に知らせることが大切である。そして、首都機能移転が来ても受け入れられるように、自立した地域作りが大切だと思います。
- パンフレットを見ると非常に綺麗な絵で100%OKというような構想であり、余り良い話ばかりで、後でしっぺ返しがあるのではと懸念している。疑問点等について明確な回答がないので、私の役員をしている団体もこの土俵に乗れないのが現状です。
- 首都機能の機能とは3権の全部が来ってしまうのか、政経分離が本当の意味でできるのか、国土構造の不均衡が移転によって本当に是正できるのか等、疑問だらけである。しかし、本当に移転するのであれば、那須地域がいいと考えている。また、21世紀を背負っていく子供たちのために、やってよかったと思えるように論議していきたいと考えている。

-要望に関する意見-

- 60万人規模の都市ができると水問題やゴミ問題等、様々な環境問題が出てくるだろうが、環境面に対する配慮は、財政的な理由で怠ってはならないと感じる。
- 愛知県において、オリンピック誘致やサッカーワールドカップ誘致等に失敗しながら、万博開催の決定にこぎつけた例もあるように、行政は、地域活性化への情熱と継続性を維持するべきだと考える。
- 災害対策を考えると、大がかりに遠方に移転するよりは近郊に機能を分散するほうが良いと思う。候補地に上がっている所は、皆、経済とか地域活性化を目的として綱引きをしていると思う。目先のことに捕らわれず、広い視野でじっくり考え、話し合い、権力で押し通すのではなく、国民の納得いく良案を見つけてほしい。
- 首都機能移転がなされた場合、大規模な開発行為によりオオタカを頂点とする生態系の破壊や広大な

平地林の消失、無数の動植物が滅び去ることは明白である。ある意味で、この計画にバックギアを入れる勇気が必要である。私たちの子どもや孫に素晴らしい自然を受け継ぐような行政を行ってほしい。

- いろいろな問題が山積しており、住民の不安や有識者の疑問にまともに答えられない現状を見たときに、慎重にすべきであると考え。地域における経済・文化・社会の発展に関しては、とちぎ新時代創造計画が十分に推進されれば、首都機能が来なくても実現できるはずである。
- 観光地としての受け入れ態勢を整備する上で、ホテル専門学校の設置や日光国立公園を1本のルートで結ぶ周遊コースの設置など、ハード面での関係機関の協力をお願いしたい。
- きれいな那須野ヶ原の自然を破壊することなく、世界のモデルとなれるきれいな都市を作ってほしい。
- 首都機能移転候補地はどこも栃木県に劣らず田舎であるが、この田舎というイメージをどこの候補地よりも早く提唱し(テレビコマーシャル等を利用)「国民が安心できるようなイメージが栃木県にはある」といったPRを県外へするべきだと思う。
- 3権のすべてが来てしまうと長いスパンで考えると一極集中がまた起きてしまうと懸念されるので、どれかは他に行っても良いのではと思う。

- 意見交換における主な意見(要旨) -

- 那須地域だけでなく、隣接市町村の社会資本整備も合わせて考えていく必要がある。
- 首都機能移転問題については、財政問題によって先送りされたのは事実であるが、これを機会に、首都機能移転は那須地域が最高にいいんだということを栃木県民が誇れるような活動を根気強くやっていくべきだと思う。
- シミュレーションを含めて、環境アセスメント法に基づいた環境アセスメントができないだろうか。
- この地区の現時点での行政施策、つまり足元のテーマを実現していくことをしっかり行っていないと、もし、首都機能が来た場合、この地区が遅れていってしまうことが心配である。行政・住民が一体となって足元を見つめなおしてほしい。
- メリット部分ばかりが強調されて、デメリットがあまり表に出ていない。
- 県選出国會議員の意見がまとまっていない。
- 工場誘致や団地造成等を行えば必ずメリット、デメリットがでてくる。総論賛成、各論反対ではなく、両方について真剣に考えてほしい。遅れないように配慮して運動を進めてほしいと希望する。